

取扱説明書 Ver 1.00

SD-643

ランドブリーズ Pro.3



安全上の注意事項 ご使用前によく読んで予測される事故を回避し安全にご使用ください。

⚠ 危険 明らかに生命にかかわる重大な事故が予測される行為を示します。

- このテントの素材は難燃性ではありません。テント内では燃烧式のランタンやコンロ、ヒーターなどの熱源や、マッチ、ローソク、ライター、タバコなどの裸火や炎は絶対に使用しないでください。限られた空間での火気の使用は火災や酸欠、一酸化中毒などの恐れがあり大変危険です。
- テント内で燃料を保管したり、燃料を補給するなど、引火性のあるものを持ち込まないでください。



⚠ 警告 場合により重大な事故に至る行為を示します。

- 気象状況には常に細心の注意を払い、風の強い時や悪天候が予想されるときは速やかに撤収して安全な場所へ避難してください。
- 高温に加熱されたものや発熱性のあるものを持ち込まないでください。火災や熱中症などの危険があります。
- 天候によりテント内は高温になり、熱中症などの危険があります。お子様の昼寝の際など、細心の注意を払ってください。
- 風の吹き抜けるような場所や、雪崩、がけ崩れ、急な洪水や氾濫などの恐れのない地盤のしっかりとした、水はけの良い平坦な場所を選んで設営してください。

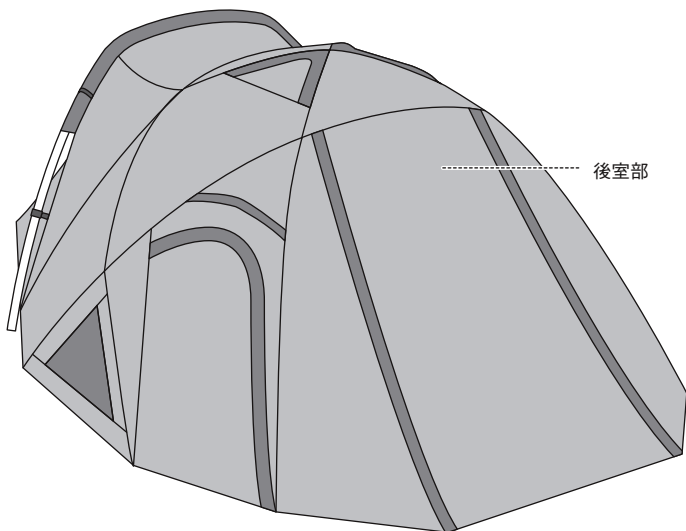
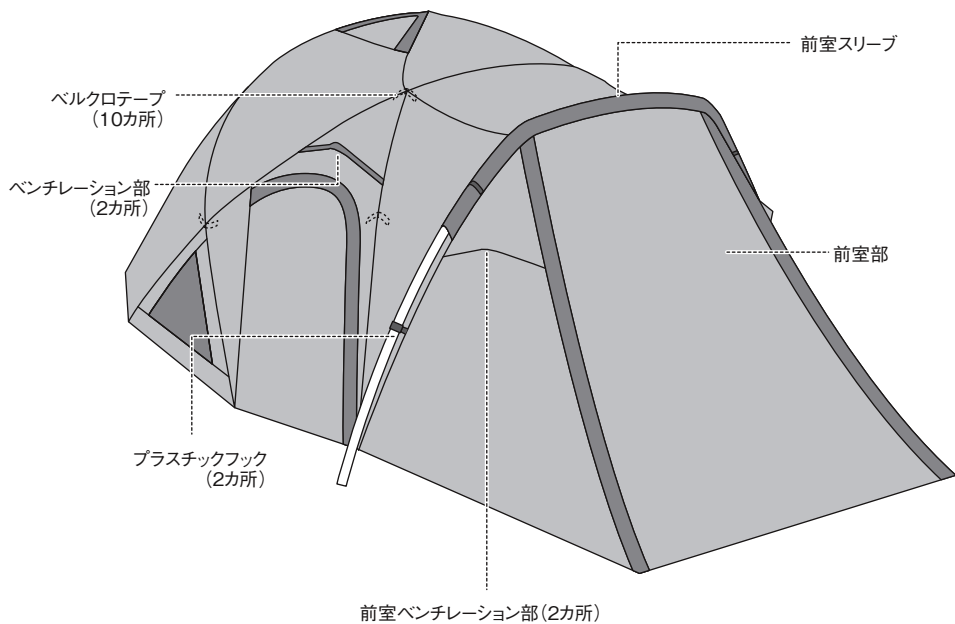


⚠ 注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

- 本製品は常設用ではありません。テントの素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。
- 日差しによりテントの表面は低温やけどに発展するほどの高温になります。十分にご注意ください。
- 焚火や花火などのそばで組み立てたり、使用しないでください。設営・撤収の際には、周囲に火気がないことを確認してください。火の粉を被り、生地に穴を開けてしまう場合があります。
- 樹液が付着するときれいに除去することができません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設営してください。シンナーやベンジン等の有機溶剤により無理に除去しようとすると生地やコーティングを痛めてしまいますのでおやめください。
- テントの設営・撤収の際は、風に飛ばされないよう生地とフレームをしっかりと支えて作業してください。フレーム先端のハネ返り等で思わぬ事故に繋がる恐れがありますので、必ず周囲の安全を確認して作業してください。
- ペグとロープでしっかりとテントを固定してください。
- 薄い生地を使用していますので、生地を引っ張りすぎると破損する恐れがあります。ご注意ください。
- 足もとのロープやペグ等にはご注意ください。足を引っ掛けて転倒し、思わぬ事故の原因となります。
- インナーテント内には小物を吊るすループが付いています。1kgを超えない範囲でご使用ください。

各部の名称

[フライシート]



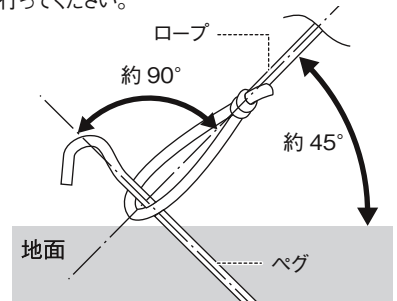
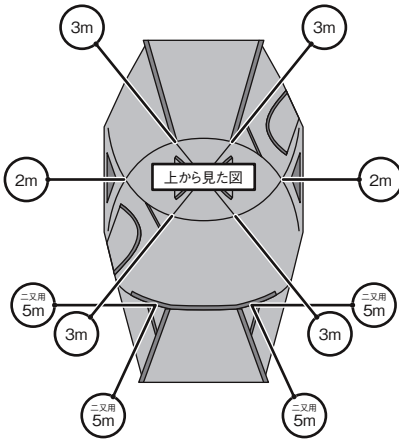
[インナーテント]



インナーテントのコーナータブやパネルの構成は前後で対称になっています。

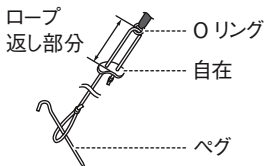
自在付ロープのフライシートへの取り付け、ペグダウンの位置

自在付ロープのフライシートへの取り付け、ペグダウンは下図のように行ってください。



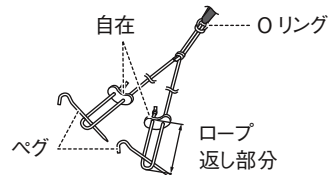
ペグダウンはテントからできるだけ遠くに行ってください。設営したとき、ロープの角度が地面に対して約45°となるのが理想的なペグダウンの位置です。また、ペグを打ち込む角度はロープに対して90°になるようにペグダウンしてください。

シングルロープの取り付け



ロープの自在が付いている返し部分がOリング側に来るように取り付けてください。

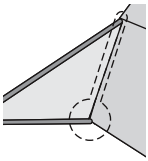
二叉用ロープの取り付け



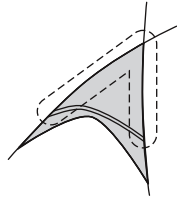
中間の結び目をOリングに通し返し部分がペグ側に来るように取り付けてください。

使用前の準備

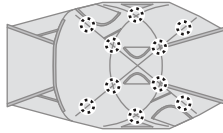
縫製部分にはシームテープによる防水処理が施してありますが、フライシートのベンチレーション部やファスナー部、ボトムシートの一部は製造の都合上、または構造上、シームテープが施せない部分があります。通常の雨には十分対応できますが、長時間の大雨や横なぐりの雨、地面に雨水が溜まっているような状態では、縫い目から雨水が侵入することがありますので必要に応じて縫い目にシームグリップ剤(目止め液)を塗布してください。シームグリップ剤は縫い目に沿って表裏の両面からうすく塗布し、よく乾燥させてください。シームグリップ剤は時間とともに硬化します。剥離したときは塗布しなおしてください。下記の指定箇所以外の場所から雨水が侵入した場合も必要に応じて目止めを行ってください。



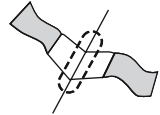
ボトムのコーナー部すべてにシームグリップ剤を塗布してください。(8カ所)



ベンチレーション部の外と内側にシームグリップ剤を塗布してください。(4カ所)



フライシート外側、ベルクロテープの縫い付け部にシームグリップ剤を塗布してください。(10カ所)



フライシート内側、ベルクロテープの縫い付け部の表と裏側にシームグリップ剤を塗布してください。(10カ所)

設営の手順

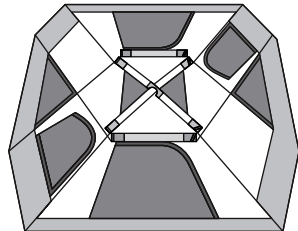
設営・撤収は以下の説明に従いキャンプ前に繰り返し練習し、実際のキャンプに備えてください。

無理な設営・撤収は本体やフレームの破損や事故の原因になります。

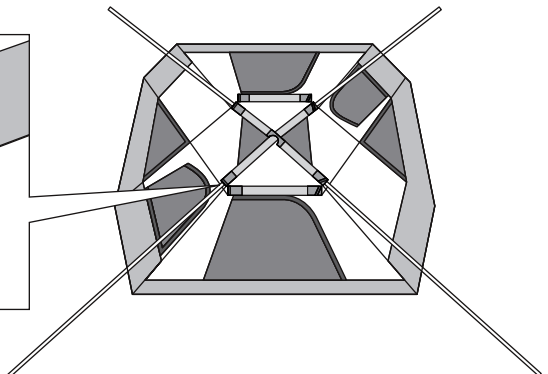
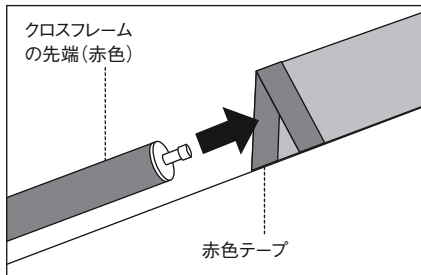
キャンプに行く前にセット内容に不備がないことを必ず確認してください。

設営は必ず2人以上で行ってください。

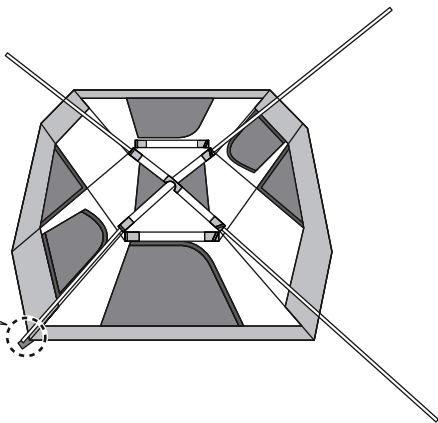
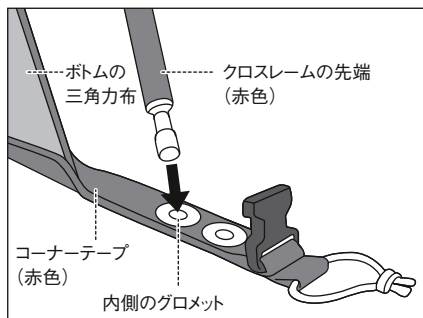
- ① インナーテントを設営する平坦な地面にボトム面が底になるように広げてください。
※風があるときは出入口が風下を向くように設営してください。出入口を風上に向けると、風雨が侵入したり、突然風が入り本体が飛ばされたり、破損する場合があります。



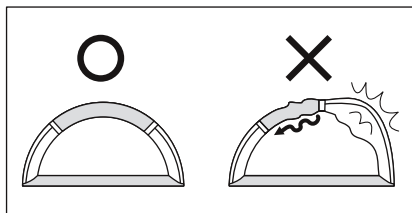
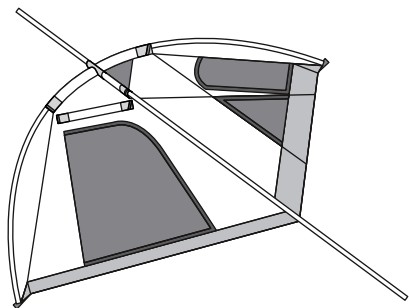
- ② クロスフレームをインナーテントの赤色のテープが付いたスリーブに差し込んでください。
※差し込む際にフレームの先端(赤色)とスリーブのテープ(赤色)の色が合っているか確認してください。



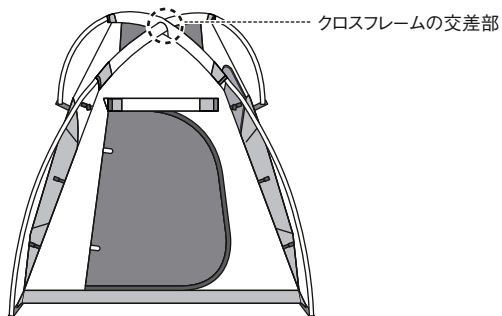
- ③ クロスフレーム片側の先端をボトムのコーナーテープの内側のグロメットに差し込んでください。
 ※差し込む際にフレームの先端(赤色)とコーナーテープ(赤色)の色が合っているか確認してください。



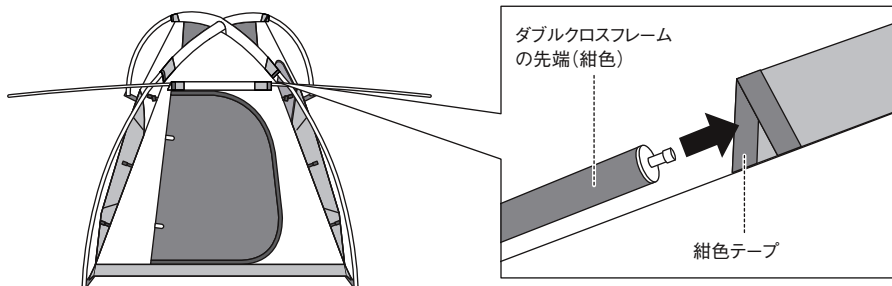
- ④ 差し込んだクロスフレームの反対側の先端をコーナーテープの内側のグロメットに差し込んでください。
 ※差し込む際にフレームの先端(赤色)とコーナーテープ(赤色)の色が合っているか確認してください。
 ※スリーブの位置が中央になるようにスリーブを引っ張り、調整しながらゆっくりとフレームを差し込んでください。
 一方から強引に押し込むとフレームの反対側が大きく湾曲し、フレームが破損する原因になります。よく注意しながらグロメットにフレームを差し込んでください。



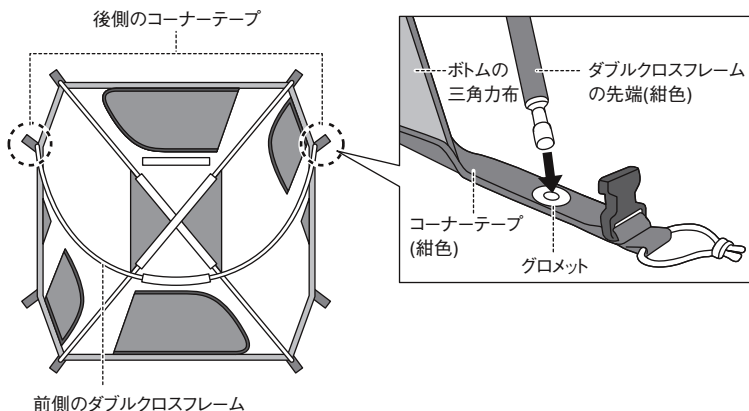
- ⑤ ③④と同じ要領でもう1本のクロスフレームの両端をコーナーテープの内側のグロメットに差し込んでテントを立ち上げてください。1人がクロスフレームの交差部を持ち上げていると楽に立ち上げることが可能です。



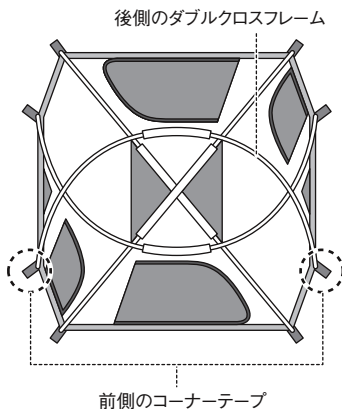
- ⑥ ダブルクロスフレームを1本インナーテントの紺色のテープが着いたスリーブに差し込み、ダブルクロスフレームの中心とスリーブの中心を合わさるまで押し込んでください(前室側、後方側どちらを先に進めても設営可能です)。※差し込む際にフレームの先端(紺色)とスリーブのテープ(紺色)の色があっていることを確認してください。※ダブルクロスフレームは1本ずつ組みつけてください。



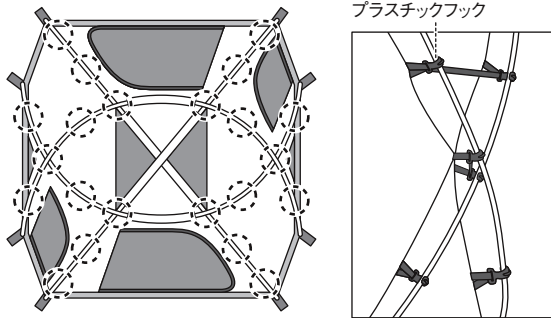
- ⑦ ③④と同じ要領でダブルクロスフレームの両端を本体の縫い目に沿って誘導し、インナーテントのボトムにある紺色のコーナーテープのグロメットに片側ずつ差し込んでください。※ダブルクロスフレームとクロスフレームが交差する箇所ではダブルクロスフレームが上になるようにしてください。



- ⑧ ⑥⑦と同じ要領でもう1本のダブルクロスフレームの両端をインナーテントのボトムにある紺色のコーナーテープのグロメットに片側ずつ差し込んでください。



- ⑨ 本体に付いているプラスチックフックをそれぞれのフレームに引っ掛けてください。(28カ所)

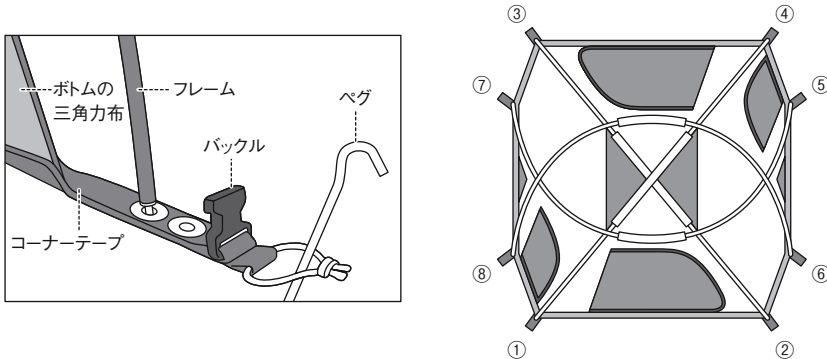


- ⑩ 開いているインナーテントのファスナーをすべて閉めた後、各コーナータープの先端に付いているベグダウンループにベグを通し、ボトムのたるみを取るように図の番号順に軽く引きベグを打ち込んでください。(8カ所)

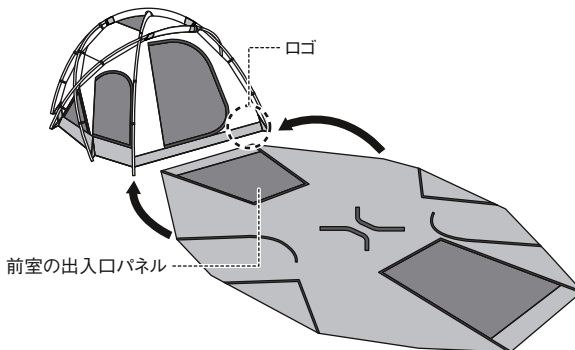
※ベグは最後まで打ち込んでください。

※ベグは無理に打ち込むと曲がりや折れ等の破損につながります。少しずつ打ち込み、石などの障害物に当たった場合は場所を少し変えてから打ち込んでください。

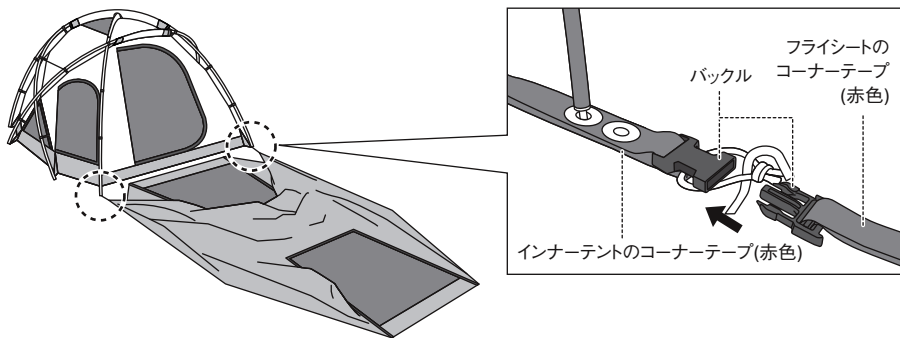
※ファスナーを閉めずにベグダウンをすると、ドアが閉められなくなることがあります。



- ⑪ インナーテントの前にフライシートを裏面(ロゴの印刷がない面)が上に向くように広げてください。このとき、このとき、メッシュの付いている前室の出入口パネルをインナーテントの出入口(ロゴが表示されているパネル)に近づけてください。

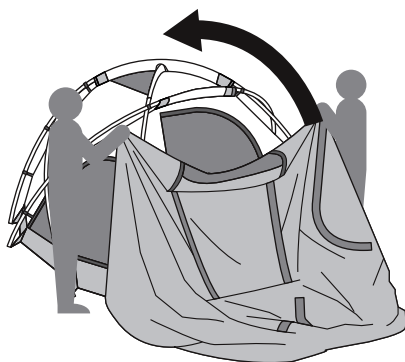


- ⑫ 図の様にフライシートとインナーテントそれぞれの出入口の両脇にある赤色のコーナーテープの先端にあるバックルをテープがねじれないように繋いでください。

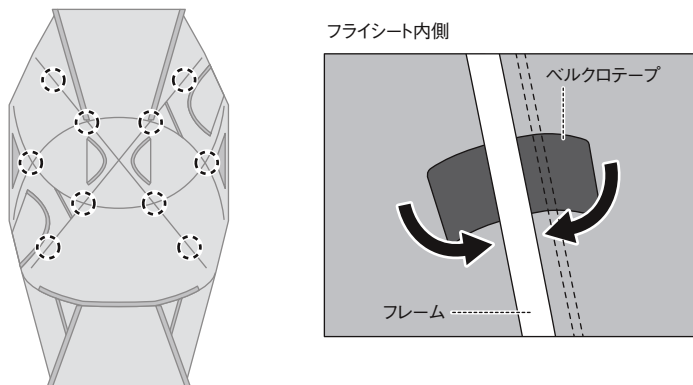


- ⑬ 2人でフライシートの両側に立ち、フライシートのインナーテントから一番遠い箇所を持ちフライシートをインナーテントに被せてください。その後、インナーテントとフライシートのパネルの形状が一致するようにフライシートの位置を調節してください。

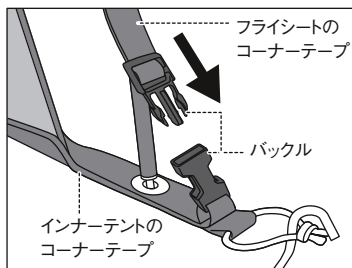
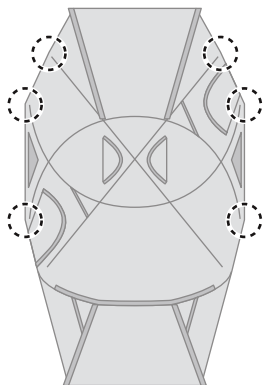
※インナーテントは前後が対称になっておりどちら側でもフライシートの取り付けが可能です。



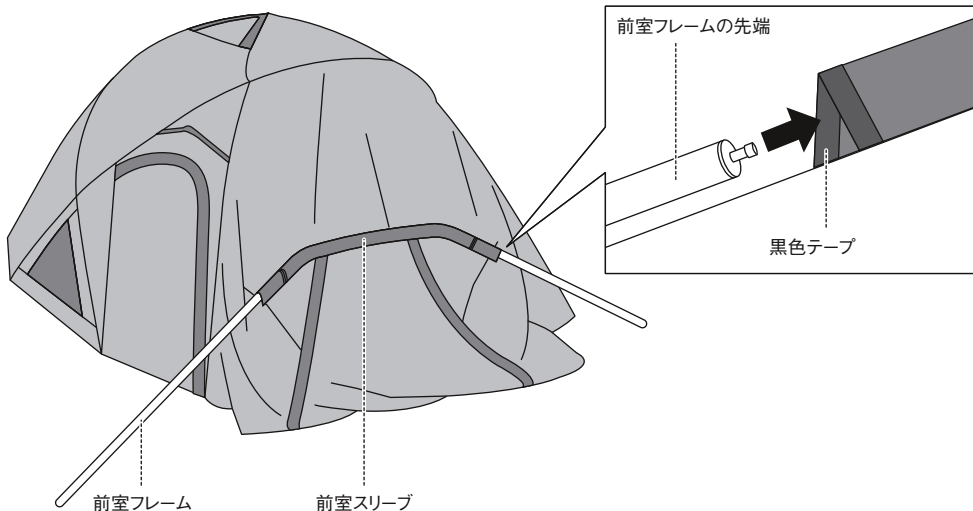
- ⑭ フライシートの内側に付いているずれ防止のベルクロテープをフレームに巻きつけて固定してください。(10カ所)
※インナーテントは前後が対称になっておりどちら側でもフライシートの取り付けが可能です。



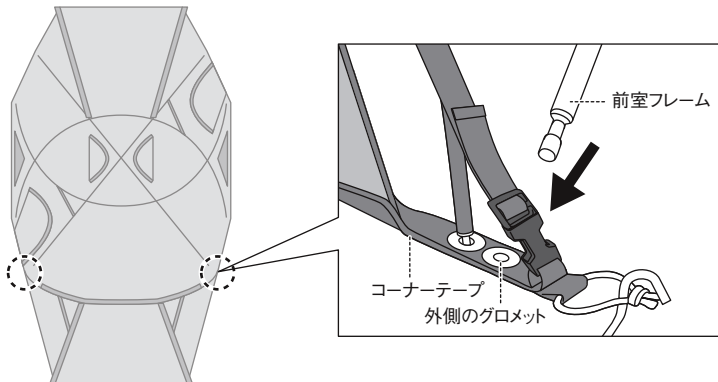
- ⑮ インナーテントとフライシートの各コーナーテープの先端にあるバックルをつなげてください。(6カ所)
つなげた後にすべてのバックルの調節テープを引いてフライシートを張ってください。
※つなげる際に各コーナーテープの色が合っているか、コーナーテープがねじれていないか確認してください。



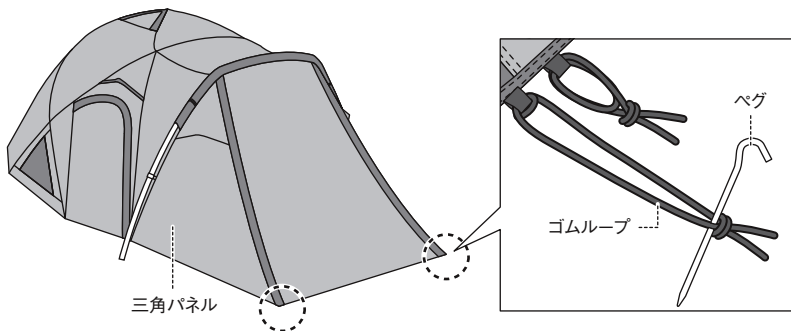
- ⑯ 黒色のテープが付いた前室スリーブに前室フレームを通してフレームとスリーブの中心が合うまで押し込んでください。
※フレームを差し込む際には、必ず押し込んでください。フレームを引っ張ると、ジョイントがはずれ、接続が不十分になることがあります。



- ⑰ ③④と同じ要領で前室フレーム両端をコーナータープの外側にあるグロメットに差し込んでください。その後、フライシートに付いているプラスチックフックを前室フレームに引っ掛けてください。(2カ所)



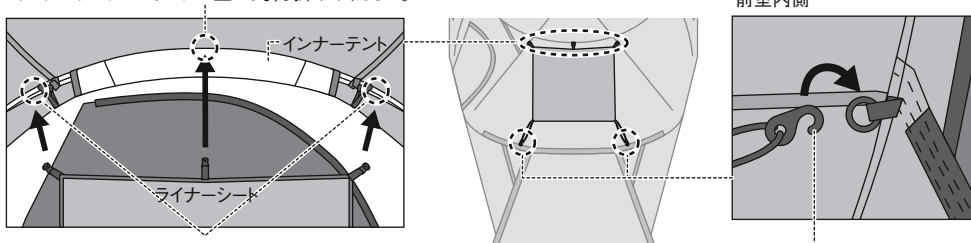
- ⑱ 前室の先端を引き、前室の三角パネルについているゴムループにペグを通し打ち込んで固定してください。
※前室は引き過ぎるとファスナーに負担がかかり破損する恐れがあります。引き過ぎにご注意ください。



- ⑲ P4の「自在付ロープのフライシートへの取り付け、ペグダウンの位置」の図のように各自在付ロープをフライシートに取り付けて引き、ペグで固定してからテンションをかけてください。
※ロープは引き過ぎますとフライシートに負担がかかり破損する恐れがあります。引き過ぎにご注意ください。

- ⑳ 前室の天井にライナーシートを取り付けてください。クロスフレームにライナーシートのプラスチックフックを取り付け(3カ所)、その後前室スリーブ下のリングにSフックを取り付けてください。(2カ所)
ライナーシートは結露が垂れたり、頭を天井に擦った際に濡れてしまうのを軽減する目的で取り付けます。ライナーシートはPUコーティング面(てかりのある面)が天井を向くように取り付けてください。

インナーテントのスリーブの上から引っ掛けてください。



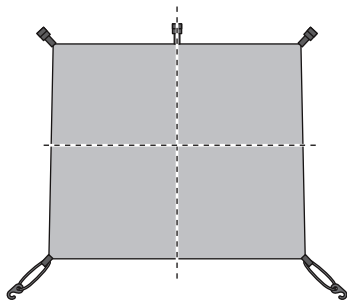
クロスフレームに引っ掛けてください。
インナーテントのプラスチックフックの外側に引っ掛けてください。

Sフック

撤収の手順

撤収は設営と逆の手順で行ってください。インナーテント内、フライシート内にもが入っていないことを確認してから作業を開始してください。インナーテントの出入口のファスナーを少し開いておくと巻き取りやすくなります。

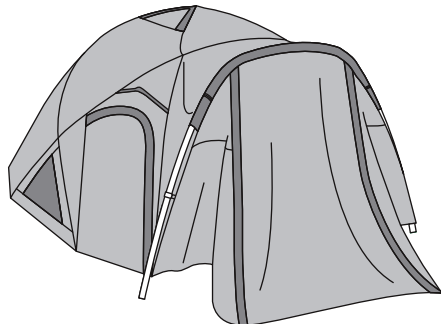
- ① ライナーシートを取りはずし、折りたたんでください。



① 1/4に折ってください。

- ② すべてのベグを地面から抜き取り、自在付ロープをまとめてください。

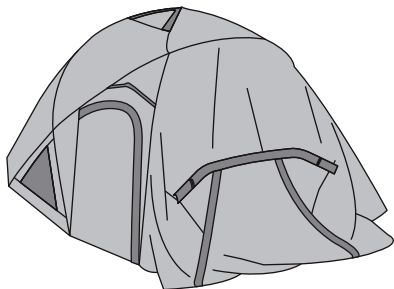
※風が強い場合は風上側のテントボトムスのベグは抜き取らずに残してください。



- ③ 前室フレームのプラスチックフックをはずし、前室フレームをフライシートから取りはずしてください。

※フレームをグロメットからはずす際は、必ず手でフレームをつかんでください。フレームが跳ね上がり大変危険です。

※スリーブからフレームを取りはずす際は、周りの状況をよく確認し必ず押し出しながら取りはずしてください。



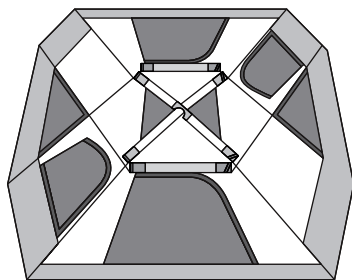
- ④ コーナーテープのバックルとフライシート内側のベルクロテープをはずし、フライシートをインナーテントから取りはずしてください。



- ⑤ フレームに付いているプラスチックフックをすべて取りはずした後、ダブルクロスフレーム、クロスフレームの順にフレームをインナーテントから抜き取ってください。インナーテントのベグを残している場合はこの時にすべて抜き取ってください。

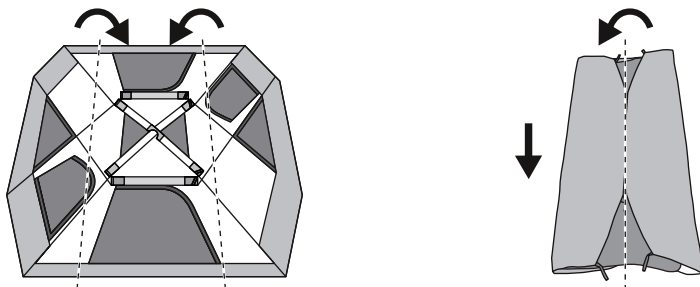
※フレームをグロメットからはずす際は、必ず手でフレームをつかんでください。フレームが跳ね上がり大変危険です。

※スリーブからフレームを取りはずす際は、周りの状況をよく確認し必ず押し出しながら取りはずしてください。



- ⑥ フライシートとインナーテントをキャリーバッグの幅に合うよう図の様に折りたたみ、ライナーシートと共に収納してください。

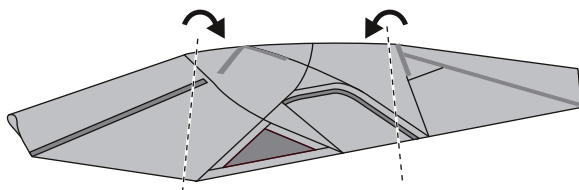
インナーテントのたたみ方



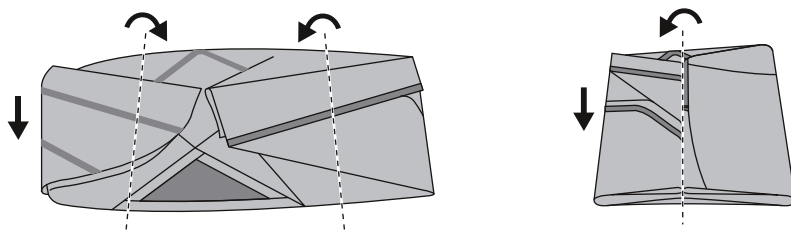
- ①両端を中央に向かって内側に折ってください。 ②縦に2つ折りして矢印の方向に巻いてください。

フライシートのたたみ方

2人でフライシートをつかみ、1人が前室出入口パネル上部の中央を、もう1人が後室出入口パネル上部の中央を持ちフライシートがセンターで2つ折りされるように地面に寝かせてください。

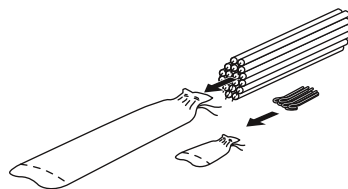


- ①両端を中央に向かって内側に折ってください。



- ②さらに両端を中央に向かって内側に折ってください。 ③縦に2つ折りして矢印の方向に巻いてください。

- ⑦ フレームやペグは付属のフレームケース、ペグケースに入れてキャリーバッグに収納してください。ペグの抜き忘れ、回収のし忘れにご注意ください。ペグは湾曲している頭から収納してください。



撥水・防水性能について

- 本製品のフライシートの生地には高性能の撥水加工を施していますが、生地の特性上、撥水性能(撥水の仕方や耐久性)に若干の差が見られる場合があります。また、ご使用を重ねますと撥水性能が低下する場合があります。性能が低下した場合は市販の撥水スプレー等を、それらの説明書をよくお読みの上ご使用ください。
- 防水性の高い生地を使用しておりますが、地面の水溜りなどへ長時間接触していると雨水が浸み込む場合があります。
- 農業などでPUコーティングが破壊され耐水圧が異常低下してしまう場合があります。この症状と判断された場合、製品の保証が出来なくなりますのでご注意ください。
- 撥水剤の影響によりロゴマークが剥離する場合があります。

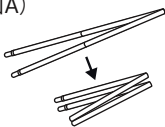
紫外線の影響について

- 本製品のフライシートの生地にはUVカット加工を施しています。
※UVカット加工は、紫外線による人体への影響や、素材劣化を防止するものではありません。
- テントの素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。
- 紫外線の影響と思われる素材の劣化により、耐久度合いを超えたものは弊社でも修理できない場合があります。

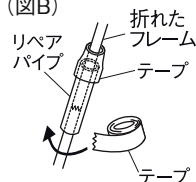
メンテナンス・保管

- 本製品はポリエステル生地を組み合わせで使用しています。生地の特性を考慮し、できる限り色移りし難い加工と配色パターンを採用していますが、保管状態などにより、色移りが発生する場合があります。ご了承ください。また、濡れたままの保管は避けてください。
- 濡れたまま保管すると、カビや悪臭、生地の色移り、生地の劣化などのトラブルの原因になりますので、使用後は風通しの良い日陰で十分に乾燥し、柔らかいブラシなどで泥汚れを落としてから保管してください。
- フレームは表面の汚れを落とし、十分に乾燥させてから保管してください。濡れたまま保管すると腐食したり、強度が低下します。ジョイント部分は常に清潔にし、少量のシリコン系潤滑剤を薄く塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。また、フレーム内部のショックコードは不必要に引っ張らないでください。
- フレームを収納する際は、中央を意識しながら折り畳んでください。(図A)
- 高温多湿を避け、直射日光の当たらない風通しのよい場所に保管してください。
- ファスナーに泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩擦し破損の原因になりますので、ブラシなどを使い常に清潔にしてください。また、スライダーの動きを滑らかにするために、少量のシリコン系樹脂剤を定期的に塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。
- ご使用により広範囲にわたり素材が劣化し、耐久度合いを超えたものは修理できない場合があります。
- シームテープはPUコーティングが痛まない程度の温度設定で圧着されていますが、使用を重ねるにしたがい剥離してしまう場合があります。剥離が確認された場合は、アイロンを低温に設定し、剥離箇所のみを再度圧着してください。熱を掛け過ぎた場合生地が変色したり劣化が促進されますのでご注意ください。シームテープは無理やり剥離させないでください。PUコーティングが一緒に剥離された場合、修理できなくなる可能性があります。
- 樹液が付着してしまうときれいに除去することはできません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設営してください。溶剤などにより無理に除去すると生地やコーティングを傷めます。
- 次回の使用に備え、ロープやベグなどの付属品も含め、上記の通り十分に保守、点検をしてください。
- 使用する際にフレームが折れてしまった場合は、応急処置として速やかに付属のリペアパイプをあて、ビニールテープで固定するか、撤収をしてください。(図B)

(図A)



(図B)



品質保証について

お買い求めいただきました製品は万全を期してありますが万一不備な点がございましたら、お買い求めの販売店または弊社までご連絡ください。製造上の欠陥が原因の場合は無償で修理または交換させていただきます。その他の場合は適正な価格で修理させていただきます。修理・交換の判断は弊社の裁量によるものとさせていただきます。また、以下の場合は保証、修理できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

1. 取扱説明書に従わなかったと判断した場合。
2. 素材の経年劣化による製品の寿命。
3. 改造及び粗雑な扱いによる製品の故障。
4. 不測の事故による製品の故障。
5. その他製造上の欠陥以外による製品の故障。
6. ゴミやサビによる故障。
7. 分解したことによる不具合の発生または破損。
8. 落下やその他の衝撃による部品の変形や破損による不具合。
9. 消耗品の劣化、破損、故障及び付随する不具合。
10. 他社製品との組合せによる故障。

修理について

- 本格的な修理が必要な場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。
- 修理を依頼される場合は、必ず十分に乾燥させ、汚れをきれいに落としてください。
- 修理品には修理箇所がはっきりと解るように、必ずメモまたは荷札を付けてください。また破損時の状況をできるだけ詳しく書いたメモを添えてください。
- 修理品の運賃並びに修理費については以下のように規定させていただきます。
 1. 保証対象の場合：往復運賃並びに修理費は弊社にて負担いたします。
 2. 保証対象以外の場合：往復運賃並びに修理費は、お客様のご負担とさせていただきます。

スペック

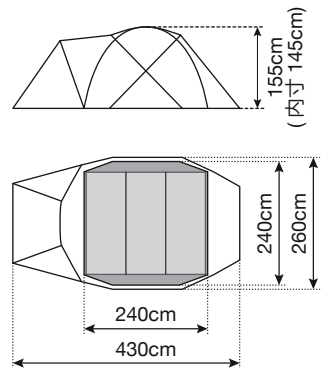
○セット内容：テント本体、ライナーシート、クロスフレーム(×2)、ダブルクロスフレーム(×2)、前室フレーム(×1)、ジュラルミンペグ(17cm×22)、自在付ロープ(二又用5m×2、3m×4、2m×2)、シームグリップ剤、リペアパイプ、キャリーバッグ、フレームケース、ペグケース

○材質：フライシート／75Dポリエステルリップストップ・PUコーティング耐水圧1,800mmミニマム・テフロン撥水加工・UVカット加工、インナーウォール／68Dポリエステルタフタ、ボトム／300Dポリエステルオックス・PUコーティング耐水圧10,000mmミニマム、フレーム／ジュラルミンA7001(Φ9.5mm、Φ11mm、Φ12mm)

○キャリーバッグサイズ：67×23×26(h)cm

○重量：9.2kg

○対応人数 3-4名



不明な点やお気付きの点がございましたら、販売店様または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

スノーピークユーザーサービス

☎0120-010-660 (9:00~17:00)

E-mail: userservice@snowpeak.co.jp

株式会社スノーピーク

〒955-0147 新潟県三条市中野原456

tel:0256-46-5858 fax:0256-46-5860

www.snowpeak.co.jp

MADE IN CHINA